

**事例 9** 読み手に配慮し、テーマについて自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある文章を書くことをねらった事例

○学年 第3学年

○主な領域 「書くこと」

○事例のポイント

- ①「AI を積極的に活用していくべきか」というメールの問いかけについて考える時間を設け、読み手に伝わるように書かせる。
- ②生徒同士のやり取りを通して、AI の利点や課題、自分の考えを広げさせたり、深めさせたりする。
- ③生徒が自身の理解や興味・関心に応じて書いた文章を、お互い読み合わせ、コメントを伝え合わせることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る。

**ICTを活用した主な学習場面**

- ①AIについての自分の考えや気持ちのICT端末上での記述
- ②お互いの文章の読み合いとコメントの交換

**ICT活用の利点**

- ① お互いが書いた文章にコメントを記入することが容易になり、友人からのアドバイスを基に、読みやすく、分かりやすい文章を作成することができる。
- ② ICT端末を活用することで、どの内容をどの順序で書くのか整理しやすくなる。

1 単元名 Unit4 AI Technology and Language

2 単元について (略)

3 生徒の実態と本単元の意図 (略)

**4 単元の目標**

姉妹都市にある学校の生徒に対して「AI を積極的に活用していくべきか」について自分の意見を伝えるために、AI について考えたことや感じたこと、その理由などをまとまりのある文章で書くことができる。

- ・関係代名詞のうち、主格の that、which、who の特徴やきまりを理解し、AI についての事実や考えたことを書く技能を身に付けている。 (知識及び技能)
- ・姉妹都市にある学校の生徒に、「AI を積極的に活用していくべきか」について事実や考え、気持ち、その理由をまとまりのある文章で書いている。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・姉妹都市にある学校の生徒に、「AI を積極的に活用していくべきか」について、事実や考え、気持ち、その理由をまとまりのある文章で書こうとしている。 (学びに向かう力、人間性等)

**5 単元の評価規準**

(本単元における「聞くこと」「話すこと[やりとり・発表]」「読むこと」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと 書	<p>〈知識〉</p> <p>①関係代名詞のうち、主格の that、which、who の特徴やきまりを理解している。</p> <p>〈技能〉</p> <p>②関係代名詞の理解を基に、AI についての事実や考えたことを書く技能を身に付けている。</p>	<p>①姉妹都市にある学校の生徒に対して「AI を積極的に活用していくべきかどうか」を伝えるために、AI についての事実や考え、気持ち、その理由など簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章で書いている。</p>	<p>①姉妹都市にある学校の生徒に対して「AI を積極的に活用していくべきかどうか」を伝えるために、AI についての事実や考え、気持ち、その理由など簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章で書こうとしている。</p>

## 6 単元計画

時	◆目標・○活動	評価			
		知・技	思・判・表	態	◎評価規準〈評価方法〉
1	<p>◆姉妹都市から送られたメールを読んで、内容を理解し、今後の見通しをもつことができる。</p> <p>◆関係代名詞のうち、主格の which の特徴やきまりを理解し、自分のお気に入りのものについて伝え合うことができる。</p>				<p>「評価についての考え方」</p> <p>※本単元では、第1時から第5時は、目標に向けた指導を行うが、記録に残す評価はしない。ただし、生徒の学習状況を把握し、学習改善や教師の指導改善に生かすことは毎時間行う。</p>
	<p>○単元の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹都市からのメールを読み、相手意識をもつ。</li> <li>・この単元で、送られたメールに返信することを知る。</li> <li>・メールを返信するために、今後の学習において必要なことを考え、整理する。</li> </ul> <p>○言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係代名詞のうち、主格の which の特徴やきまりについて、自分の好きなものを伝え合う活動を通して理解する。</li> </ul>				
2	<p>◆教科書本文(Part 1)を聞いたり読んだりして内容を理解し、関連する内容について自分の考えを表現することができる。</p> <p>◆関係代名詞のうち、主格の which が用いられた本文を読み、関係代名詞のうち、主格の which の特徴やきまりを理解することができる。</p>				
	<p>○本文の内容理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係代名詞のうち、主格の which が用いられた教科書本文について、学習者用デジタル教科書を活用しながら聞いたり、読んだ</li> </ul>				

	<p>りする活動を通して、AI の利点について知る。</p> <p>○情報収集と整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI の利点についてどんなものが挙げられるか調べ、自分の考えを整理する。</li> </ul>				
3	<p>○本文の内容理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係代名詞のうち、主格の who が用いられた本文を読み、対立する2つの意見の内容を理解する。</li> </ul> <p>○自分の考えを伝える活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「翻訳機があれば外国語を学ぶ必要がないか」という教科書の話題について、身の回りの生活から考え、事実や自分の考えを整理しながら伝え合う。</li> </ul> <p>○情報収集と整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹都市からのメールを基に、AI の進化に伴い、どのような課題が挙げられるかを調べ、整理する。</li> </ul>				<p>◆教科書本文(Part 2)を読んで「外国語を学ぶ必要があるか」について、自分たちの生活と関連付けて考えることができる。</p> <p>◆関係代名詞のうち、主格の who が用いられた本文を読み、関係代名詞のうち、主格の who の特徴やきまりを理解することができる。</p>
4	<p>○教科書本文の内容理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係代名詞のうち、主格の that が用いられた教科書本文を I C T 端末を活用して繰り返し聞いたり、読んだりする活動を通して、外国語を学ぶ意義について考える。</li> </ul> <p>○自分の考えを伝える活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語を学ぶ意義について、教科書の内容を参考に自分の考えを整理し、理由を含めながら</li> </ul>				<p>◆教科書本文(Part 3)を聞いたり読んだりして内容を理解し、関連する内容について自分の考えを表現することができる。</p> <p>◆関係代名詞のうち、主格の that が用いられた本文を読み、関係代名詞のうち、主格の that の特徴やきまりを理解することができる。</p>

	アで伝え合う。				
	◆AI の利点や課題について知識や考えを深め、自分の意見を整理して書くことができる。				
5	○ペアでのやり取り ・AI の利点や課題について友人と情報交換を行う。 ○意見交換した内容をまとめる活動 ・意見交換した内容を基に、AI の利点や課題について、事実や自分の考えを整理しながら書く。				

**事例のポイント②**  
仲間や学級全体との意見交換を行うことで、同じ視点の内容を深めることや、異なる視点や考え方を学び、自分の考えを広げる。

	◆AI の利点や課題から「AI を積極的に活用していくべきか」について自分の考えを書くことができる。				
6	○「AI を積極的に活用していくべきか」について書く活動 ・姉妹都市にある学校からのメールの内容を再確認する。 ・整理した情報を基に「AI を積極的に活用していくべきか」について考えたことや感じたこと、その理由などを書く。	書 ① ②			◎関係代名詞のうち、主格の特徴やきまりを理解している。〈提出データ〉 ◎関係代名詞の理解を基に、AI についての事実や考えたことを書く技能を身に付けている。 AI の積極的な活用について、事実や自分の考え、気持ちなどを関係代名詞などの簡単な語句や文を用いて書く技能を身に付けている。〈提出データ〉

**事例のポイント①**  
メール内容から、相手がどんなことを求めているかを考えさせ、相手意識をもたせる。

**ICT活用の利点②**  
ICT端末を活用することで、書く内容の順序や構成を整理し、まとまりのある文章を書きやすくする。

	◆「AI を積極的に活用していくべきかどうか」について、自分が書いた文章を読み手により分かりやすいものにする。				
7	○友人が書いた文章を読む。 ・友人が書いた「AI を積極的に活用していくべきかどうか」についての文章を読み、コメントや質問を書く。 ○AI の課題とその解決策を書く。 ・友人のコメントや質問を参考に、清書する。	書 ①	書 ①		◎姉妹都市にある学校の生徒に対して「AI を積極的に活用していくべきか」を伝えるために、AI についての事実や考え、気持ち、その理由などを簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章で書いている。 〈提出データ〉

**事例のポイント③**  
友人が書いた文章から言語面や内容面で自分の文章に生かせるものを探す。また、友人からもらったコメントや質問を踏まえて、読み手により分かりやすい文章を書くことにつなげる。

**ICT活用の利点①**  
ICT端末上で書くことで、文章の共有やコメント、質問を効率よく行うことができる。

◎姉妹都市にある学校の生徒に対して「AI を積極的に活用していくべきか」

					か」を伝えるために、AI についての事実や考え、気持ち、その理由などを簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章で書こうとしている。〈観察、提出データ〉
後日	ペーパーテスト	書 ① ②	書 ①	書 ①	<p>◎関係代名詞のうち、主格の that、which、who の特徴やきまりを理解している。</p> <p>◎関係代名詞の理解を基に、AI についての事実や考えたことを書く技能を身に付けている。</p> <p>◎姉妹都市にある学校の生徒に対して「AI を積極的に活用していくべきか」を伝えるために、AI についての事実や考え、気持ち、その理由などを簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章で書いている。</p> <p>◎姉妹都市にある学校の生徒に対して「AI を積極的に活用していくべきかどうか」を伝えるために、AI についての事実や考え、気持ち、その理由など簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章で書こうとしている。</p>

## 7 本時の展開

目標 AI の利点や課題から、「AI を積極的に活用していくべきか」について自分の考えを書くことができる。

準備 指導者用 I C T 端末：指端、学習者用 I C T 端末：学端、ワークシート：ワシ、振り返りカード：振カ

### ○本時の展開（6 / 7）

時間	○生徒の活動 ・ 学習内容	・ 指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
導入 12 分	<p>○挨拶をする。</p> <p>○Small Talk</p> <p>○<u>姉妹都市から送られてきたメールの内容を再確認する。</u></p> <p>○本時の目標を把握する。</p>	<p>・ 本時の流れを提示する。</p> <p>・ 単元の内容に関連した話題を設定し、本時の学習活動につなげる。</p>	<p>指端</p> <p>学端</p>
		<p>事例のポイント①</p> <p>メールの内容から、相手がどんなことを求めているかを考えさせ、相手意識をもたせる。</p>	

<p>姉妹都市にある学校の生徒に対して「AI を積極的に活用していくべきか」について、自分の考えを書こう。</p>			
<p>展 開 33 分</p>	<p>○前時までの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習内容を振り返り、AI の利点や課題、友人の考えを整理する。</li> </ul> <p>○整理したことを基に、「AI を積極的に活用していくべきか」について ICT 端末上を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までのワークシートを活用し、AI の利点や課題、友人の考えを振り返らせ、メールの返信への参考にするように促す。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>ICT 活用の利点②</b></p> <p>ICT 端末を活用することで、どの内容をどの順序で書くのか整理しやすくなる。</p> </div>	<p>ワシ</p>
	<p>○書きたいけれど表現に迷う点などをみんなで共有し合い、学級で助け合いながら学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて ICT 端末を使用し、単語や表現等を調べる。</li> </ul> <p>○読み手を意識した内容になっているかグループで読み合い、確認する。</p> <p>○「AI を積極的に活用していくべきか」について確認した内容を基に、順序や構成の修正等を加え、再度推敲する。</p> <p>○書いた文章をデータで提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手に分かりやすい順序や構成になっているかどうかについても考えさせる。</li> <li>・書きたいけれど表現に迷う点や共通して見られる誤りを取り上げるなど、言語面の指導を行う。</li> <li>・ICT 端末を使って、友人が書く文章を共有し、自分自身の学習に生かす。</li> <li>・メールを再度読ませ、「読み手が知りたい内容になっているか」など内容面の指導を行う。</li> </ul> <p>◎関係代名詞のうち、主格の that、which、who の特徴やきまりを理解している。 <span style="float: right;">〈提出データ〉</span></p> <p>◎関係代名詞の理解を基に、AI についての事実や考えたことを書く技能を身に付けている。</p> <p>AI の積極的な活用について、事実や自分の考え、気持ちなどを関係代名詞などの簡単な語句や文を用いて書く技能を身に付けている。 <span style="float: right;">〈提出データ〉</span></p>	<p>学端</p> <p>学端</p> <p>学端</p> <p>学端</p> <p>学端</p> <p>学端</p> <p>指端</p>
<p>ま と め 5 分</p>	<p>○振り返りシートを記入する。</p> <p>○挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手を意識して「AI を積極的に活用していくべきか」について、事実や自分の考え、気持ちなどを関係代名詞などの簡単な語句や文を用いて書けたかという視点で振り返りシートを記入させる。</li> <li>・全体で挨拶をする。</li> </ul>	<p>振カ</p>

